

## 新たな年に向かって

看護副部長

すぎやま きみえ  
杉山 貴美江

2020年度は「新型コロナウイルス感染症」に始まり11月には第3波が来るなど「新型コロナウイルス感染症」に翻弄された1年でした。

2020年に「コロナ禍」という言葉がよく使われておりました。「コロナ禍」とは『2019年末からの新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行による災難や危機的状況を指す言葉である』と言われています。国内では感染患者が増え、重症患者も増え、医療機関の崩壊が来るとも言われています。

幸い魚津市では発症者も少ない状況にあり、地域の皆さまに必要な医療・看護が提供できることにほっと胸をなでおろしています。病院内では重症の患者さんや術後の患者さんといった、免疫力が低下している方も多くいます。職員が感染源や媒介しないよう私たちは勤務前の体温測定・マスクの着用・手指衛生を徹底し、感染予防対策に取り組み、看護を実践しています。しかし、「コロナ禍」の状況がまだまだ続くことも考えられるため、患者さんにご家族にも日々の生活の中で感染予防対策の基本であるマスクの着用・手洗い・3蜜を避ける等の対策にご協力をお願い致します。

また、院内で新型コロナウイルス感染症が発生すると、致死的な状況になる可能性があるため、富山県や魚津市の状況に合わせて、面会制限をさせていただいております。患者さんにとって、ご家族とのコミュニケーションは「命の源」だと思っております。なかなか面会が難しい中で、皆さまと密に連携をとり、安心した入院生活が送れるよう、荷物の受け渡しやご相談など対応させていただきます。ご理解・ご協力をお願いいたします。

まだまだ新型コロナウイルス感染など不安な状況もありますが、皆で感染対策に取り組み、この難局を乗り越えましょう。

